

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
2.(社)恩賜財団 母子愛育会	<p>母子愛育会 保健所・市町村の医師、保健婦、助産婦、看護婦、栄養士等を対象に地域母子保健講習会(5回) 病産院の医師、助産婦、看護婦を対象に周産期医療研修(4回) 保健所・市町村の医師、保健婦、助産婦、看護婦、栄養士、相談員等を対象に母子保健セミナー(6回)(民間職場の職員も含む) 愛育班員等研修会(2回) 地方研修 全国愛育会支部にて開催の愛育班育成者、愛育班員研修(15回) 子ども家庭総合研究所 「健やか親子21」など国の政策課題に対応する9つの研究課題を設定し、研究に取り組んでいる 平成13年11月を目途に「子ども総研式・子育て支援質問用紙」を刊行する 子ども総研のホームページ中に"愛育ネット"を設け、「健やか親子21」の解説、国や地方の取り組みをネット上で紹介している</p>	<p>母子愛育会 左記の通り、～ について実施する 子ども家庭総合研究所 左記の通り実施する については、「子ども総研式・子育て支援質問用紙」刊行</p>	<p>H13年度に準じた計画を実施予定</p>
3.(財)家庭保健生活指導センター	<p>13年度は記載なし</p>	<p>思春期の子どもをもつ更年期女性を対象に、保健教材「ナイスミディヘルスブック」を作成し、女性のからだと心についての普及を行った。産婦人科病院、保健センター等に100万部配布</p>	<p>昨年度同様、女性のからだと心についての保健教材を製作、配布していきたい</p>
5.子どもの心・体と環境を考える会	<p>小学校へ小児科医が頻りに訪問し、授業の観察研究と生徒や教師の健康相談に応じる インターネットメーリングリストを利用した他業種間の情報交換と学術的研究グループの結成 患者や生徒への質的方法による情報収集と調査研究 患者ボランティア団体結成の支援</p>	<p>第3回学術大会 開催 12月22日 名古屋国際会議場 約100名 概要:講演「健康な学校」、2つのシンポジウムや「子どもの健康と学校」「アレルギーと学校生活」を行った。医療・教育分野からさまざまな職種の専門家が子どもの健全な生活について話し合った。 研究会誌「子どもの健康科学」第2巻 第1号発行 概要:第2回大会のシンポジウム「不登校の子ども達から学んだこと」「医療と心」を掲載した研究会誌200部発行、配布した。 テーマ別研究会「質的研究」2月23日 昭和大学医学部 参加者約30名 概要:日本の研究で最も遅れている「質的研究」の手法について研修会を行い、会員の研究手法の向上を図った。</p>	<p>東京において第4回学術大会「新しい世紀を担う子どもの健全な育成のために」をテーマに2日間開催する。 会員の質的向上を目指した研修会「テーマ別研究会」において、研究や実践で役立つ子どもに関するテーマを取り上げ、定期的開催する。 研究会誌、第3巻 1号、2号を発刊する。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
7. (財)性の健康医学財団	<p>会員に対して「健やか親子21」を周知するために、ニューズレター等に報告書全文を掲載する 厚生科学研究(性感染症サーベイランス、STOP STD/HIV)と連携して実態調査、予防思想の普及啓発を行う 11月開催予定の当財団創立80周年記念大会でもふれる</p>	<p>健全な“性”の維持・増進の重要性を正しく理解していたために「性の健康週間」(11月25日～12月1日)を設置し、実施。具体的には、市民公開講座「思春期における性」(11月28日、プラザエフ)を実施・リーフレット「誰にも聞けない性の悩み」50,000枚、啓発カード「エッチのおきて」50,000枚、性の健康週間のポスター1,000枚を作成・配布。ポスターはホームページからのダウンロードも可能とした・特電を設け、専門医による“性の健康相談”の実施(電話数10件) 学生～専門家向けに「性の健康」に関する情報(性感染症、性機能障害等)を提供 http://www.jfshm.org/ (パソコン向け):アクセス数平均1,000件/日 http://www.jfshm.org/mobile (iモード、j-sky、ezweb対応) E-mail(soudan@jfshm.org)による性の悩みカウンセリング実施(126件) 研修会、セミナーへの講師派遣(1月26日、大宮市)センター別研修 参加者約80名(2月20日、広島市)研究大会 参加者約120名(3月1日、羽島市)エイズ・性感染症セミナー 参加者約100名(7月30日、浦和市)性感染症講演会 参加者約250名 公開セミナー「若者と性の健康」の開催(1月19日、福岡市)参加者110名(2月23日、札幌市)参加者150名(3月2日、盛岡市)参加者100名(3月8日、横浜市)参加者74名(3月23日、つくば市)参加者106名 パネルディスカッションにおいて、STD/エイズの診断法、治療法、及び予防法に関する多くの質問があり、関心の高さが示された。STD/エイズに関する正しい知識の普及・啓発の必要性、また性行動の低年齢化に伴い、従来の医療者側のみでなく、学校教育関係者への啓発の必要性を強く認識した。</p>	<p>13年度に提唱した「性の健康週間」を引き続き実施。具体的には、一般市民を対象とした公開講座の実施・「性の健康週間」のポスター作成・配布(各自治体・関係機関・団体)・「性感染症・サーベイランス&ガイドライン」の作成配布(性感染症予防啓発のための専門家向け小冊子、全国の保健所、大学医学部、都道府県医師会等に配布)・電話による“性の健康相談”の実施 「性の健康相談」に関するリーフレット及びカード型チラシの作成 ホームページのコンテンツ充実 “性の健康”に関する研修会・セミナーの講演依頼への対応 一般市民を対象とする公開セミナーの開催</p>
10. 全国市町村保健活動協議会(NPO)	<p>機関誌「全保協ニュース」(隔月発行13,000部)に時宜を得た情報の収集を行う 全国研修の中で、講演、シンポジウム、グループディスカッションなどのテーマに取り上げる 地方で会員協議会が取り組む事業の中に反映できるように勧奨を行っていく</p>	<p>通算6回の本会機関誌「全保協ニュース」を発行し、毎月何らかの形で課題のテーマに関する情報を提供、地方日刊紙掲載の関連記事の紹介などを行った(13,000部発行) 「市町村保健活動モデル事例集」を発行し、母子保健を含む優秀活動事例(アンケート及び実地調査で把握)の紹介を行った 全国研修において、健康日本21地方計画をめぐる課題をテーマにシンポジウム及び参加者によるグループ討議を行った</p>	<p>機関誌「全保協ニュース」(隔月発行13,000部)において課題のテーマを対象に情報伝達を図る 全国研修会の中で、講演シンポジウム、グループディスカッションなどのテーマにとりあげ、その成果を広く広報する 地方での会員協議会が取り組む事業(自主研修等)の中に課題のテーマをとりあげるよう勧奨する</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
12. 全国情緒障害児短期治療施設協議会	施設長会、総会並びに年3回職員研修会において「健やか親子21」の内容と取り組みの周知を図る	<p>公開研修会「子ども虐待に関する関係職員研修会」(対象:児童施設職員・児童相談所・教育相談機関・医療機関等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 平成13年7月27日(於:ホテルニュー京都) 演題:「被虐待児と家族への支援」 講師:桐野由美子氏 京都ノートルダム女子大学助教授 約200名参加 ・第2回 平成13年10月12日(於:ホテルモナーク鳥取) 演題:「いのちを育む器 - 周産期からの予防的ケア -」 講師:橋本洋子氏 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 周産期センター臨床心理士 約200名参加 ・第3回 平成13年10月19日(於:メルパルクYOKOHAMA) 演題:「児童虐待 - 子どもにみられる特徴と治療的かわり」 講師:若田泰子氏 神奈川県立子ども医療センター 約200名参加 <p>全国情緒障害児短期治療施設職員研修会 全体研修会(第38回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成13年7月25日(水)～27日(金) ・テーマ「虐待への取り組み」 ・基調講演・パネル討論・分科会症例研究・ワークショップ・特別講演・施設見学・於:ホテルニュー京都 開催担当:京都市青葉寮 <p>心理治療部会研修会(第22回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成13年10月11日(木)～12日(金) ・テーマ「発達障害を伴う情緒障害児の心理治療」 ・基調講演・症例研究・シンポジウム・特別講演・施設見学 ・於:ホテルモナーク鳥取 開催担当:鳥取子ども学園希望館 	<p>公開研修会</p> <p>「引きこもりと家庭内暴力に関する関係職員研修会」(対象:児童施設職員・児童相談所・教育相談機関・医療機関等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 平成14年8月9日(於:名古屋クラウンホテル) 演題:「引きこもりの子どもと親への支援」 - 思春期精神医学の立場から - 講師:青木省三氏 川崎医科大学大学教授 ・第2回 平成14年11月1日(於:ヴィアール大坂) 演題:「引きこもり及び家庭内暴力について」 講師:花田雅憲氏 近畿大学名誉教授 ・第3回 平成14年11月中旬(於:仙台市内を予定) <p>パネルディスカッション「社会的引きこもりをいかに援助するか」 講師:小林純子氏(チャイルドライン in Miyagi) 飯室 勉氏(仙台ダルク) 石川 透氏(東北会病院) 大塚憲治氏(宮城県小田原母子寮) 加藤裕子氏(仙台市精神保健福祉総合センター) 鈴木俊博氏(キャブネットみやぎ)</p> <p>司会:大坂 純氏(仙台白百合大学) 司会:大坂 純氏(仙台白百合大学)</p> <p>全国情緒障害児短期治療施設職員研修会 全体研修会(第39回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成14年8月7日(水)～9日(金) ・基調講演・パネル討論・分科会症例研究・ワークショップ・特別講演・施設見学 ・於:名古屋クラウンホテル 開催担当:愛知県立ならわ学園

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
12.全国情緒障害児短期治療施設協議会		<p>生活指導部会研修会(第22回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成13年10月18日(木)～19日(金) ・テーマ「生活指導における援助的関わりについて」 ・基調講演・施設見学・症例研究・特別講演 ・於:メルパルクYOKOHAMA開催担当:横浜いずみ学園 <p>研究紀要の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成14年3月末(編集:さざなみ学園) ・「心理治療と治療教育」第13号 ・専門治療者向けケースブックの発行(1万冊) ・平成14年3月末(編集:全国情短協議会専門治療者向けケースブック編集委員会) ・「心をはぐくむ - 総合環境療法の実際 - 」 	<p>心理治療部会研修会(第23回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成14年10月10日(木)～11日(金) ・テーマ「児童虐待と発達障害」 ・基調講演・症例研究・シンポジウム・特別講演・施設見学 ・於:五色台国民休暇村 開催担当:四恩の里若竹学園 <p>生活指導部会研修会(第23回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成14年10月31日(木)～11月1日(金) ・テーマ「児童虐待における保護者・子どもへの援助的関わりについて」 ・基調講演・分科会症例研究・施設見学・特別講演 ・於:ヴィアール大阪(大阪市職員互助組合会館) 開催担当:大阪市立児童院 <p>研究紀要の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成14年3月末(編集:京都市青葉寮) ・「心理治療と治療教育」第15号 ・相談担当者向けハンドブックの発行(2万冊) ・平成14年3月末(編集:全国情短協議会相談担当者向けハンドブック編集委員会) ・「心をはぐくむ - 引きこもりおよび家庭内暴力の子と親への支援 - 」 ・情緒障害児短期治療施設自主評価基準作成 ・平成14年末編集。平成14年度末製本

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
13. 全国助産師教育協議会	<p>会員に対して「健やか親子21」を周知するため、年度総会において報告書全文を配布する</p> <p>今年度の本協議会委託検討課題として思春期保健に対する助産婦教育カリキュラムモデル案作成を取り上げる</p> <p>参加者主体の保健指導方法について、今年度の研修会テーマに取り上げる</p>	<p>全国助産婦教育協議会のニュースレター31号(5月20日発行)にて、「健やか親子21」への参加について、「健やか親子21」の概要、推進協議会、規約、本会の行動計画の全文を掲載した</p> <p>第37回全国助産婦教育協議会総会が、平成13年6月1日(金)～2日(土)に、東京都ナースプラザにて開催された。その中で、広報委員会から、年4回発行されるニュースレター31号(5月20日発行)にて、「健やか親子21」の推進協議会団体に本会が加盟したことを掲載している報告がされた</p> <p>同総会にて、平成13年度全国助産婦教育協議会事業計画のなかに、「助産婦教育制度ならびに教育内容の検討」「助産婦教育担当者の研修と生涯学習の推進」「助産婦教育に関する資料の収集と整理および広報活動の推進」等が含まれ、また、地区別の検討課題として「4年制大学における助産婦教育の検討・関東甲信越地区」が活動方針としてだされ、調査がおこなわれた</p> <p>7月25日 文部科学省 学校教育課へ、「小・中・高等学校における生命の尊厳や性教育に関する教育に、助産婦の積極的な活用を奨励されたい」と要望書を提出した。(日本助産婦会と合同)</p>	<p>第38回全国助産婦教育協議会総会と、平成14年5月24日(金)～25日(土)に東京都立保健科学大学にて開催予定であり、</p> <p>平成13年度全国助産婦教育協議会事業計画であった、「助産婦教育制度ならびに教育内容の検討」「助産婦教育担当者の研修と生涯学習の推進」「助産婦教育に関する資料の収集と整理および広報活動の推進」等の結果や、また、地区別の検討課題であった「4年制大学における助産婦教育の検討・関東甲信越地区」の調査結果が報告される予定。その結果から、今年度の具体的な行動計画を決定する</p>
15. 全国保健所長会	<p>全国保健所長会に設置している地域保健推進委員会で、全国各地で取り組みを行っている個別事業について把握するとともに、課題解決に向けての方策を検討する</p>	<p>「健やか親子21」に関するアンケート調査実施(対象:全国保健所長)</p> <p>調査内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都道府県型保健所の市町村支援の取り組みについて ・政令市型保健所の取り組みについて ・保健所の母子保健に関する「一押し事業」について調査結果 ・他の保健所に参考になる事例等をまとめ報告書を作成中 ・調査結果を学会及び雑誌等へ発表予定 <p>「総合的な地域保健サービスの提供体制に関する研究」(健康科学総合研究事業)の分担研究の実施</p> <p>「思春期の望まない妊娠・性感染症予防のためのモデルプログラム開発と評価に関するモデル事業」(長野県大町保健所長 内野 秀幸)</p> <p>結果:保健所にセクシュアル・ヘルスの拠点としてのオープンハウスの開設等</p> <p>「児童・生徒の喫煙対策の焦点を明らかにするモデル事業」(静岡県志太榛原健康福祉センター医監 藤田 信)</p> <p>結果:教職員を対象としてライフスキルの修得を視野に入れた喫煙防止教育の実施等</p>	<p>結果を基に「健やか親子21」推進のため保健所の役割と方向性を明確にするための行動計画の作成予定</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
16.(社)全国保健センター連合会	<p>既存の研修会のテーマを健やか親子21の課題に重点をおき企画する 保健センターにおけるホームページ開設を推進して、若い世代への情報の提供や相談の充実を図る 「全保連事業のあり方に関する懇談会」の提言から、特に都市部対策を実施予定</p>	<p>研修会 母子保健事業研修会(約900名参加) 6地区開催:札幌市、山形市、新潟市、大府市、広島市、鹿児島市 ホームページによる情報提供に関する検討 全国市町村の保健センター(保健部局)・ホームページ実態調査を実施</p>	<p>研修会 母子保健事業研修会 6地区開催:北海道、秋田県、東京都、京都府、高知県、北九州市 ホームページによる情報提供に関する検討 ・全保連ホームページの全国の保健センター・ホームページをリンク ・保健センター・ホームページの活用方法の検討</p>
17.全国保健師長会	<p>静岡県西部地区で発表を兼ねてキャンペーンを行う 意見・情報を交換し、学校・地域相互の立場での思春期に関する現状と課題を明確化する 課題について、相互の連携と協力により解決可能なことに取り組む 中学・高校生に対する実態調査をする(喫煙、飲酒、薬物乱用、性感染症、人工妊娠中絶、性体験など) 思春期トークショーなどの開催 思春期問題について関係職種と連携を図るための体制整備をしたい(秋田県)</p>	<p>支部を通して活動を推進した 学校教育との連携による思春期の健康問題や性教育についての講演会、健康教室の開催 小、中、高校における保健教育に関するアンケート調査実施 日常の保健福祉事業における母親支援 (例)佐賀県支部: (1)思春期健康教室開催12回、参加人数2700人、対象は小中学校生徒・保護者・教諭・養護教諭・市町村保健婦、効果 学校家庭で性の話の導入に役立った 性教育の実践方法が学校教育で取り入れられた 保健所を利用する学校が増加し連携が取りやすくなった (2)小、中、高校における保健教育に関するアンケート調査実施。結果 飲酒、喫煙、薬物の経験率が増加傾向にあり小学校からの早期教育が必要 教育時間の確保について学校及び関係者の研修会を開催し担当者の意識を高める 親の教育観の多様化について学校、家庭、地域3者の連携を深め教育する 人材不足については外部講師の活用を進める 教材不足については保健所等が情報提供する (3)性感染症に関するアンケート調査実施 対象、16高校1年生3830人 結果、性交経験者の7割近くが性感染症罹患の可能性は低いと思っており、性感染症に対する認識が低い 症状、予防、治療について知りたいと思っている。具体的な、リスク、自らの行動との関係について認識させることが必要</p>	<p>目標:性感染症及び人工妊娠中絶の減少におく 思春期の健康問題、性教育について学校教育との連携推進 思春期教室の開催拡大 小、中、高校における保健教育に関するアンケート結果を活かした活動 思春期の人々の意識改革につながるキャンペーンを実施 ピアカウンセラーの養成等、地域の実状に合わせた対策の推進 思春期の健康問題を意識した日常活動の推進 10代の健康普及を目指すキャンペーンの実施</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
18. 全国養護教諭連絡協議会	<p>各学校で「健やか親子21」の施策について理解できるように養護教諭を対象に報告書を提供する(資料提供)</p> <p>保健学習についての研修会を実施し、学校での健康教育の実践に向けた資質の向上を図る</p> <p>研究協議会を開催し、児童生徒の健康問題についての理解を図る</p> <p>保健室相談活動の充実に向けての条件整備として、研修の充実と複数配置に関して要望活動を行う</p>	<p>・資料提供</p> <p>「健やか親子21」の施策についての理解がすすむよう養護教諭を対象に報告書を紹介し配布する。</p> <p>・保健学習についての研修会を実施し、学校での健康教育の実践に向けた資質の向上を図る</p> <p>平成13年7月28日～30日 岩手県</p> <p>平成13年8月1日～2日 東京都</p> <p>平成13年8月6日～8日 山口県</p> <p>平成13年8月8日～9日 静岡県</p> <p>計4回 380名</p> <p>・セミナーの共催</p> <p>(社)日本家族計画協会が主催する「避妊と性感染症予防のためのスキルアップセミナー」の実施にあたり、会員へセミナーの紹介と参加の呼びかけを行う</p>	<p>・保健学習についての研修会を実施し、学校での健康教育の実践に向けた資質の向上を図る(7～8月 東京・福岡・宮崎)</p> <p>・性に関する課題について研修会を実施する(8月 東京)</p> <p>・学校医、学校薬剤師、学校外専門家に教育活動に参加していただけるよう情報の公開をすすめる</p> <p>・地域保険活動との連携を図るため、保健所等とのネットワークづくりを行う。先進地域の事例を紹介し、具体的な連携方法を周知していく</p> <p>・子どもを取り巻く関係者が、健康問題について情報交換できる機械となるよう学校が積極的に場を提供していくことができるよう、教育委員会と連携していく</p>
20. (社)日本医師会	<p>平成13年度学校保健講習会の開催</p> <p>学校保健委員会開催「学校医活動における健康教育のあり方と推進のための方策」</p>	<p>学校保健委員会</p> <p>会長諮問「学校医活動における健康教育のあり方と推進のための方策」に関する報告書の作成</p> <p>概要:学校医は保健管理面における役割を充実させる共に、健康教育面にも活動領域を拡大していくべきであり、健康教育との関わりに視点をのいた学校医活動の活性化に結びつく学校医研修が重要である</p> <p>平成13年度学校保健講習会 平成14年2月16日(土)</p> <p>テーマ「学校医の健康教育推進を考える(シンポジウム)」</p>	<p>学校保健委員会開催</p> <p>会長諮問「学校医活動の実践とその展開方法について」の検討</p> <p>平成14年度学校医講習会 平成15年2月15日(土)</p> <p>テーマ「学校保健にかかわる専門相談医のあり方(シンポジウム)」</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
22.(社)日本 家族計画協会	<p>機関誌『家族と健康』を通して「健やか親子21」関連記事を取り上げる</p> <p>「避妊と性感染症予防のためのスキルアップセミナー」全国7カ所で開催</p> <p>思春期外来(婦人科、泌尿器科、精神科)の充実、地方クリニックの整備・拡大</p> <p>思春期を対象にした性教育講演の実施、学園祭などでの出前相談</p> <p>緊急避妊法の推進と緊急避妊ネットワークの拡充</p> <p>東京都から委託を受けて実施している思春期を対象にした電話相談活動</p> <p>全国の思春期保健に関心のある指導者を対象にした「思春期保健セミナー」の開催とセミナー修了者を対象にした卒業セミナー、更にグレードアップセミナーの開催</p> <p>思春期保健対策の推進に寄与する健康教育教材の開発並びに頒布</p>	<p>1)「避妊と性感染症予防のためのスキルアップセミナー」の開催: 仙台、東京、広島、大阪、札幌、名古屋、福岡など7カ所で1800人参加</p> <p>2) 思春期外来(婦人科/泌尿器科/精神科)の充実: 累積2600人受診</p> <p>3) 地方クリニックの整備・拡大: 17カ所で6,755人が受診</p> <p>4) 思春期を対象とした性教育講演の実施、学園祭などでの出前相談: 東京女子大学園祭など37カ所で講演・指導</p> <p>5) クリニックとして独自のホームページの作成しインターネットを通じて、思春期の子供たちへの性情報の提供を開始した。(http://www.jfpa-clinic.org)</p> <p>6) 本会クリニックを中心とした緊急避妊法の推進と緊急避妊ネットワークの拡充: 3月末で全国1,171カ所の施設がネットワークに所属している</p> <p>7) 東京都から委託を受けて実施している思春期を対象とした電話相談活動: 年間5,632件</p> <p>8) 全国の思春期保健に関心のある指導者を対象とした「思春期保健セミナー」の開催とセミナー修了者を対象にした卒業セミナー、更にグレードアップセミナーの開催: 岡山、東京、広島、香川、成田などで1,549人が参加</p> <p>9) 思春期保健対策の推進に寄与する健康教育教材の開発並びに頒布: 「思春期の生と性 わたしたちのエイズ」(岩室紳也著)、世界の若者2000 The World Youth 2000 日本語版などを発行</p>	<p>1) 機関誌『家族と健康』を通して、「健やか親子21」関連記事を積極的に取り上げる</p> <p>2) 「避妊と性感染症予防のための指導者セミナー」全国8カ所での開催</p> <p>3) 思春期専門外来(婦人科、泌尿器科、精神科)の充実と地方クリニックの整備・拡大と組織化</p> <p>4) 思春期を対象とした性教育講演の実施、学園祭などでの出前相談</p> <p>5) 全国に先駆けて実施している緊急避妊法の推進と緊急ネットワークの拡充と「第一線の産婦人科医に役立つ緊急避妊実践セミナー」の開催(7月)</p> <p>6) 東京都から委託を受けて実施している思春期を対象とした電話相談活動</p> <p>7) 全国の思春期保健に関心のある指導者を対象とした「思春期保健セミナー」の継続実施と「思春期保健セミナー」修了者を対象とした卒業セミナー、更にグレードアップセミナーの開催</p> <p>8) 思春期保健対策の推進に寄与する健康教育教材の開発並びに頒布</p> <p>9) ピアカウンセリング指導者研修会 ~ 健やか親子21 思春期保健対策推進方策セミナー ~ の開催(2回)</p> <p>10) JFPA若者委員会(U-COM)の学園祭等への企画参加(3大学)</p>
23.(財)日本 学校保健会	<p>学校保健センター事業として、12の委員会と9の小委員会を設置して調査研究に取り組み、児童生徒の健康保持のための活動をバックアップする</p> <p>一般事業として、これからの保健活動の推進のためには学校・家庭・地域社会の連携協力が必要であり、そのための組織づくり策について検討する委員会を設置する</p>	<p>・「性感染症予防に関する指導マニュアル」の作成・配布</p> <p>全国の高等学校における性感染症予防に関する教師用指導資料</p> <p>・エイズ教育のための教材の作成・配布</p> <p>エイズ教育のための中学生及び高校生用パンフレット</p> <p>・世界エイズデーシンポジウムの開催平成13年11月30日 国立オリンピック記念青少年総合センター 300参加学校におけるエイズ教育は、人間尊重、男女平等の精神に基づく性教育の一環として推進する観点から、協議した</p> <p>・エイズ教育のための児童生徒向けホームページを作成した</p> <p>・その他、各委員会の調査研究に基づく成果を、報告書等にまとめ学校保健関係者に提供した</p>	<p>・平成13年度に取り組んだ事業を、引き続き実施する</p> <p>・高校生を対象としたビデオ「月経と妊娠」(仮称)を作成し、配布する</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
24.(社)日本看護協会	「喫煙対策検討委員会」の運営 各地方自治体・医療実施機関等の母子保健への取り組み支援 まちの保健室・訪問看護ステーションにおける母子相談モデル事業の実施 看護の日における21のキャンペーン活動 ナースセンターにおける保健医療福祉関係機関へのマンパワー支援	「たばこ対策宣言」を発表、未成年者のたばこ対策への取組の検討	看護学生への防煙・禁煙対策支援プログラムの開発
25.日本公衆衛生学会	第60回総会(高松市)のシンポジウムの中に「健やか親子21」に関する演題を組み入れ、会員の理解を深める 本学会の「地域保健委員会」において「健やか親子21」に関する本学会の今後の取り組み案を検討する	第60回総会(平成13年10月31日～11月2日、香川)において、健やか親子21の推進を意識したシンポジウムや教育講演等を企画し、多くの参加を得た。当該課題に関する主な企画は下記のとおり ・シンポジウム「ヘルスプロモーションの現状と課題」の中で、「健やか親子21」の推進についても重要なテーマの一つと位置づけ、発表と討論が行われた ・教育講演「教育改革と学校保健・地域保健」(講師:森昭三 筑波大名誉教授) ・第60回総会記念ブースを設置したところ、地域における「健やか親子21」の推進に関する研究班(厚生労働省子ども家庭総合科学研究)からの出展があった。	・第61回総会(平成14年10月、埼玉)の中で、当該課題に関する講演等を企画する ・本学会は平成12年7月、「たばこのない社会の実現に向けて」と題する宣言をしたが、その趣旨に基づく行動等を他の学会や関係機関にも働きかけ、小児期からの喫煙防止教育の推進や喫煙習慣を獲得しにくい社会環境の整備等を再度、学会としてアピールしたい
26.(社)日本産科婦人科学	学術集会・機関誌の充実 公開講座の開催	提出なし	提出なし
28.日本思春期学会	第20回日本思春期学会総会学術集会(8/24～26:広島) 定期広報誌「思春期学」発刊(4号/年) 日本思春期学会「20周年記念号」発刊 思春期セミナーの(日本家族計画協会主催)教育指導並びに講演	定期広報誌「思春期学」発刊(4号/年) 思春期セミナーの(日本家族計画協会主催)教育指導並びに講演	定期広報誌「思春期学」発刊(4号/年) 思春期セミナーの(日本家族計画協会主催)教育指導並びに講演

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
29. 日本児童青年精神医学会	本学会の医療経済に関する委員会の定期的開催を通して医療改善活動を行う 北海道から九州地区にある学術集会あるいは学術団体を通じて適正な設置を目指して思春期外来の設置をすすめる(例:関東地区では関東児童青年精神医懇話会 会員数450人)	メンタルヘルス関連5学会(日本思春期青年期精神医学会、日本児童青年精神医学会、日本小児心身医学会、日本小児精神神経学会、日本乳幼児医学・心理学会)と合同企画によるシンポジウムを開催し、思春期のメンタルヘルスに関する全国的な取り組みの問題点と課題を討議し、思春期メンタルヘルス対策を前進させた 関連5学会は連携して日本の思春期の子どもの精神保健の向上に向けて取り組むこと、3年ごとにこのようなシンポジウムを開催することで思春期メンタルヘルスの展開を図ることが確認された(H13,9,14～15:日本都市センターホテル、約250名参加) 学会総会においては思春期精神医学に関する研究報告を取り上げ、若い臨床家の育成に努めた 思春期保健対策の強化のために、入院治療における治療機能の向上とより実地的な精神科治療の展開を図る必要性があり、このことについては学会の委員会活動により取り組んだ(H13,10,24～26:金沢市観光会館・金沢市中央公民館 約800名参加)	思春期の保健対策として、特に学校精神保健対策の推進に努める計画であり、本年度は学会総会において、特にADHD関係の精神保健の向上に向けた啓蒙啓発に取り組む 思春期の精神保健対策にとっては子どもたちの心の脆弱性や攻撃性の理解、そしてそれらの問題にどのように取り組むかという大きな課題があるが、本学会では総会のシンポジウムの主要なテーマに取り上げて、学会員の、なおいっそうの臨床実践を押し進める計画である(H14,11,27～29:日本都市センターホテルを会場に予定) 思春期の保健対策として、これから重要なテーマとなる問題は被虐待児の思春期問題であり被虐待児の激増ぶりは日本の将来に大きな影を落とし始めてきているため、児童福祉施設の対応能力が追いつかないことのみならず、家族における問題も深刻化しているが、こうした問題は特に学会の委員会活動をととして検討し、学会員に積極的に情報の発信をし、全国的な取り組みを押し進める
31. (社)日本小児科医会	学校医として、思春期にある学童・生徒の性や心の相談に養護教諭と協力して積極的に対応する「思春期の青少年の心の問題に関する研修会」で、その場で実感した問題点を解決できるように努める	小児科医に対する思春期の性、STD、妊娠、非行に対する臨床講習会を11月4日に開催し、受講者は219名であった	・13年度に引き続き「思春期の臨床講習会」を開催する ・「若年妊娠と性教育」の講演会を6月に広島で開催する
32. (社)日本小児科学会	東日本、西日本から各1ヵ所地区(県単位)を選定し、利用可能な社会資源の実際を調査する リストアップされた社会資源の関係者に集ってもらい、それぞれが可能な心の問題への対応範囲を明確化する 「災害医療」と同様に重篤な心の問題を持つ青少年が出た際の診療あるいは対応の流れ図を作成する	具体的な取り組みはない。ただし、今後に向けて以下の検討を関係者間で行った 思春期の心の問題へ対応できる小児科内資源の整理 プライマリ・ケア医が紹介できるようなリストの必要性を認識し、その実現を検討する モデル県の可能性の検討 各社会資源を有機的に結びつけた小児・思春期精神保健診療体制の実現の可能性を検討すること	思春期の心の問題へ対応できる小児科内資源のリストアップ 分科会である日本小児心身医学会及び日本小児精神神経学会を中心として、思春期の心の問題へ対応できる小児科医の全国レベルのリストを作成することを検討する モデル県の可能性の検討 茨城県において、小児科と精神科、さらに、教育や心理関係のスタッフが連携して、小児・思春期の精神保健診療体制を作ることが可能かどうかの検討を行う

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
33. 日本小児看護学会	<p>定期的刊行物(ニューズレター及び学会誌)の年2回の発行 地方での活動を活性化するための集会</p>	<p>学術集会 7月12・13日、神戸国際会議場において開催。約800名参加。「子ども・家族の主体化と専門職との協働 - 新世紀の小児看護へのアプローチ - 」というメインテーマで開催された学術集会において、講演やシンポジウム、交流集会、課題別検討会、などを通して看護専門職の意識の向上を行うとともに、一般演題においても、思春期の精神保健等の課題が発表された 東北地区研修会 日本小児看護学会では、今年度は、東北地区研修会において「子どもと家族の声が聞こえていますか」をテーマに講演等を行い、患者家族や他の職種で構成されたシンポジウムにおいても、多くの看護職の参加を得て小児看護の専門職の意識の向上を図った</p>	<p>学術集会 「子どもと家族の主体性を支える看護 - 今、直面している困難感からの脱却 - 」をメインテーマに、子ども達の主体性を支えるあり方に関する講演やシンポジウムを予定している課題別検討会においても、セルフケアと成長発達に合わせたインフォームド・コンセントなど、子ども達の自立と、そのサポートについて検討する 養護教諭とともに思春期の子ども達の心身の問題を考えていく会を開くなど、思春期保健に携わる種々の専門職との協働によって、子ども達の現在の課題に対応していけるようなシステム作りの検討を行う 成人に移行した小児慢性疾患の子ども達のその後について、研究を通して看護職としてのあり方を検討していく</p>
35. (社)日本小児保健協会	<p>全国キャンペーンをさらに推進する 全国47都道府県支部に小児保健協会として「健やか親子21」に対する取り組み、具体的行動を連絡し、このための体制を整備する</p>	<p>幼児健康度調査の結果をまとめた 小児保健セミナーの開催6月24日(日)野口記念会館 「予防接種の現状と今後」 参加人数:300名 日本小児保健学会プレコンgres学習セッション * 21世紀は子どもの心の健康を育むためにどうするか(河合隼雄) * ケントからみた日本の子育て(ケント・デリカット) * シンポジウム「乳幼児の心の健康について」誰が、どこで、どのように指導するか東京ビッグサイト国際会議場参加:800名、11月16日 第48回日本小児保健学会東京ビッグサイト国際会議場11月17~18日参加:1800名 * シンポジウム ・21世紀の乳幼児健診はどのようにあるべきか・小児の虐待は予防できるか 小児保健シリーズの刊行幼児健康度調査報告書 全国支部小児保健学会における講演並びにこのための支部活動 代表幹事団体として「健やか親子21第4課題推進委員会」を2回開催 8月14日、11月1日 全国保健センター、参加:幹事団体、活動計画の検討をおこなった</p>	<p>小児保健セミナーの開催「小児のアレルギー」6月16日(日)、野口記念会館 第49回日本小児保健学会の開催10月10日~12日神戸、ポートピア国際会議場・プレコンgres学習セッションの開催 小児保健シリーズの刊行 小児保健研究年6冊刊行 全国47都道府県支部における小児保健学会の開催と支部活動 代表幹事団体として健やか親子21、第4課題推進協議会の開催 ・幹事団体並びに協力団体と協力して、地域における周産期から思春期にいたる、育児不安の軽減、子どもの心の安らかな発達の促進、虐待防止を目的として地域全体に子育て支援システムを構築 ・平成14年度は8~10箇所のモデル地区の設定を予定 ・各地区における子育て支援システムの情報の普及のためのシステムも作成する予定</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
35. (社)日本小児保健協会		健やか親子21:公開シンポジウム「未来の明るい家族のために、今、何ができるか」:子どもの心の安らかな発達の促進:未来の明るい家族のために」への参加並びに14年度打合会の開催(参加:50名) ・子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減 14年3月12日JAホール、参加:250名	
37. (社)日本助産師会	思春期教育用のマニュアル(個別・中・高校生用の集団用)の作成と教材(テキスト、ビデオ等)の開発 思春期教育に携わる指導者の育成のための研修会の開催 本部及び支部における思春期相談及び教育の(個別・集団)の推進	研修会 H13.9/23 24 福井県他5ヵ所で開催 計359名の助産婦が参加 フォーラム H13.11/18 福島県他5ヵ所で開催 計384名の一般、養護教諭等が参加 概要:家庭内の性教育指導が重要、学校での性教育には専門職である助産師に担当してほしい、援助交際や性感染症を減少させるには子どもだけでなく大人への性教育が必要等の意見がでた その他 思春期教育用のマニュアル(個別・中学・高校生用集団用)の作成および支部・関連機関への配布 教材ビデオ(中学・高校生用)の作成および支部・関連機関への配布 本部及び支部における思春期相談及び教育(個別・集団)の実施	春期教育用教材の開発 指導者の育成のための研修会を全国6地区において開催 本部及び支部における思春期相談及び教育(個別・集団)の推進(特に10支部において新たに思春期専用無料電話相談を実施する) 受胎調節実地指導員の業務拡大・向上への働きかけ(受胎調節実地指導員の活動実態調査を日本看護協会助産師職能と合同調査実施)
38. 日本性感染症学会	性感染症の診断・治療に対する2001年版ガイドラインを作成し、平成13年7月発行予定の日本性感染症学会誌に掲載する	性感染症 診断・治療ガイドライン2001年度版を作成した。協力して活動している(財)性の健康医学財団に発行を委託し、各自自治体・保健所等に送付して、性感染症予防の普及啓発活動に役立てている。	性感染症 診断・治療ガイドライン2002年度版を作成し、(財)性の健康医学財団に発行を委託し、各自自治体・保健所および、各医師会・各大学医学部に送付する 保健所・学校の開催するセミナー・講演会などに当学会の役員・会員が講師として参加し、性感染症に関する知識を拡め、健康教育の推進を計る
39. 日本赤十字社	平成13年4月に当社で作成している児童・生徒用の「健康安全プログラム」のテキストを指導者(学校の先生)が児童・生徒に指導しやすいように改訂して一層の普及を目指す	児童生徒用の「健康・安全プログラム」テキストを、より親しみやすい内容に全面改訂し、発刊した テキストを各都道府県支部を通じて紹介し、普及を図った	本年度からは新たな統一方式による心肺蘇生法の普及が始まり、また、学校教育現場においても体験学習を重視した学習指導要領が実施されており、これを契機に学校における体験学習の一つとして、積極的に健康安全プログラムを展開し、一層の普及を図る
43. (財)日本母子衛生助成会	高校男女生徒用教材「ティーンズヘルスノート」(100万部)の作成配布	高校男女生徒用教材「ティーンズヘルスノート」を100万部作成し、自治体・高等学校を通じて配布した。	高校男女生徒用教材「ティーンズヘルスノート」を前年に引き続き作成(100万部)配布

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
44. 日本母性衛生学会	<p>本年度機関誌「母性衛生」の特集テーマとして公募あるいは指名する ホームページを通じて会員に課題の意義を周知する</p>	<p>表題の実践に際して、地方支部組織との連携、協力が重要であるが、13年度はさし当たって、アンケート形式による調査、ならびに今後の取り組み方を志向するにとどまった</p>	<p>第43回本学会学術講演会理事長講演において、「これからの思春期管理のありかた」について基調講演を行う 機関誌「母性衛生」の「学習コーナー」において、思春期保健に関わる諸問題をとりあげ、会員に周知をはかる 地方支部における本題に関わる基本的実践を促し、ホームページを通し、本部、ならびに会員との密な関連をはかる</p>
47. (社)日本薬剤師会	<p>薬剤師を対象とした「薬物乱用防止研修会」を9月1日(大宮市)、9月29日(大阪市)に開催・各都道府県レベルでも同様の研修会を実施する 学校教育の一環として、学校薬剤師を講師とした児童・生徒に向けた薬物乱用防止の啓発活動を実施 「薬と健康の週間」(10月17～23日)を中心に、薬物乱用防止に向けた全国統一キャンペーンを実施 ・年度を通じて地域住民を対象とした「薬物乱用防止研修会」「薬健康教育」等を実施 住民向け啓発パンフレットを30万部程度作製し、上記キャンペーンや薬局店頭で域住民に配布</p>	<p>平成13年度「薬物乱用防止研修会」の開催 ・薬剤師を対象とした「薬物乱用防止研修会」を開催し、薬物乱用防止に向けた指導者の育成を図った 平成13年9月 1日(土) さいたま市・JA共済埼玉ビル 130名参加 平成13年9月29日(土) 大阪市・大阪府薬剤師会館 130名参加 学校教育の一環として、学校薬剤師を講師とした児童・生徒に向けた薬物乱用防止の啓発活動を実施 「薬と健康の週間」(10月17～23日)を中心に、一般市民向けに薬物乱用防止 に向けた各種事業を各都道府県薬剤師会で実施</p>	<p>平成14年度「薬物乱用防止研修会」の開催 ・薬剤師を対象とした「薬物乱用防止研修会」を開催し、薬物乱用防止に向けた指導者の育成を図る 平成14年9月 1日(日) 岩手県にて開催 平成14年9月22日(日) 香川県にて開催 薬物乱用防止パンフレットの作製・配布 ・薬物乱用防止に向けた住民向け啓発パンフレットを作製し、薬局等を通じて広く地域住民に配布する(新規に実施) 学校教育の一環として、学校薬剤師を講師とした児童・生徒に向けた薬物乱用防止の啓発活動等を実施する(継続的に実施)平成14年度は小学校中学校新学習要領に基づき、従来の薬物乱用防止教育に加え、タバコ、酒等についても啓発を行う。また、性教育についても薬剤師を積極的に活用するように努める 「薬と健康の週間」(10月17～23日)を中心に、一般市民向けに薬物乱用防止に向けた各種事業を各都道府県薬剤師会で実施する。(例年実施)平成14年度は特に、子どもを持つ親に対して、薬の安全な服用方法等についての疑問、不安、誤飲防止についての情報提供を行う</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
49.(財)母子衛生研究会	<p>中学男女生徒用教材「中学生のためのラブ&ボディBook」(45万部)の配布 思春期セミナーの開催(3地区) 24時間電話情報「性の悩み青春ホットダイヤル」の提供 婚前者・未婚男女用教材類の作成</p>	<p>・「思春期の性と健康シンポジウム」を3地区で開催 11月2日開催 メルパルク岡山・泰平 中国・四国地区 300名参加 2月1日開催 メトロポリタン長野 甲信越地区145名参加 3月26日開催 朝日生命ホール(東京) 南関東地区348名参加 概要...養護教諭等学校保健・学校関係者および市町村保健師等地域保健担当者対象 「生涯を通じた女性の健康とは何か」、「思春期の性と健康へどうかかわるか」をテーマに、思春期の子ども心と体、性的逸脱行動の現状と背景、思春期保健の地域ネットワークづくりなどについて討論を行った。参加者からは、思春期の性に関する現状認識と最新の知見にもとづく保健・医療知識を得ることができたと好評であった ・思春期保健教材「中学生のためのラブ&ボディBOOK」配布 上記シンポジウムの開催3地区の市町村に計113,400部を配布(2月)。中学校での性教育、健康教育で活用されている ・24時間電話情報「性の悩み～青春ホットダイヤル」(継続事業) よく質問される性やからだと健康についての心配事85項目をテープで解説。他人に相談しにくいことでも、電話ですぐ情報が得られるため便利という声が多い</p>	<p>・「思春期の性と健康シンポジウム」を北関東、東北、東海・北陸の3地区で開催 ・思春期保健教材「中学生のためのラブ&ボディBOOK」を上記3地区の市町村に配布 あわせて中学校男女生徒へのアンケートを実施 ・24時間電話情報「性の悩み～青春ホットダイヤル」の継続</p>
50.(社)母子保健推進会議	<p>全国母子保健推進員全国大会の開催 母子保健強調週間(10月)の推進 母子保健推進員研修会の実施 機関誌「母推さん」の配布</p>	<p>第1回母子保健推進員全国大会の開催 H13年9/21(金)山口市民会館 1100名 ・母子保健推進員は地域母子保健活動の第一線で活動しており大事な仕事である ・「健やか親子21」の国民運動を積極的に推進していく ・推進員の活動がさらに活性化されるためにも全国組織の充実が必要である 母子保健強調週間(10月)の推進 ・「妊産婦・乳幼児の健康診査受診勧奨ポスター」の制作と配布 ・喫煙による障害発生防止運動 ブロック別母子保健事業研修会の実施 母子保健推進員研修会の実施 機関誌「母推さん」の配布 関係教育・啓発用教材の企画・制作 子どもの虐待防止活動 乳幼児事故防止セミナーの開催 手作り健康教育媒体コンテストの開催</p>	<p>第2回母子保健推進員全国大会の開催 母子保健強調週間(10月)の推進 ブロック別母子保健事業研修会の実施 母子保健推進員研修会の実施 関係教育・啓発用教材の企画・制作 子どもの虐待防止活動 乳幼児事故防止予防セミナーの開催 手作り健康教育媒体コンテストの開催</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
54. 日本新生児学会	妊娠、出産、育児の重要性を社会にアピールするための企画と実施	思春期の問題と出生前・後の児の健康の確保を関連づけるアピールをおこなうべく、学会内委員会において実現のための検討をおこなった。	(1)若年妊娠に伴う周産期の問題点について、母体、新生児の両方の観点から明らかにし、医療従事者および、思春期の生徒、学生への教育を検討する。 (2)性感染症と妊娠、分娩、新生児との関わりについての教育、啓蒙運動を検討する。 (3)思春期の心の発達過程において、妊娠、分娩、育児について正しく理解させる方策を検討する。
55. 日本学校保健学会	「学校内における禁煙宣言」を行う(全ての学校を禁煙ゾーンとする) 学会内にこれらの目標実現のための委員会と具体的行動計画を立案する	「青少年の喫煙防止に関する提言」を行った。これを契機として、「学校をタバコのない場所に！」という運動を行った。	上記の運動を継続して行っている。主に行政機関、学校、教職員を対象として様々な方法で働きかけをしている。
59. 性と健康を考える女性専門家の会	会員が中高大学等に出向き、避妊や性感染症の予防などの健康教育を実践し、当会作成のVTRやパンフレットを用い科学的な情報提供をする 日本女医会と連携し性教育指導者養成講座を行う メディアの性感染症の取り上げ方に対する思春期の人々の反応を調査研究し、有効な情報提供のあり方を探る	・ランチョンセミナー(第20回日本思春期学会特別プログラム)8月24日開催 広島国際会議場 テーマ「思春期の性と健康を考える」会員の成田伸(広島大学医学部保健学科臨床看護学助教授)が会員が各地で集めた「性に関する調査」高校生4000名分を越える調査の結果に基づいて報告した。・「十代の性と健康」指導医養成講座 日本女医会主催 に協力 10月28日 女性と仕事の未来館【情報編】1)わが国の青少年の性の実態について 小田洋美(吉祥女子中・高校教諭、人間と性教育研究会)家坂清子(いえさか産婦人科、ぐんま思春期研究会)2)性と健康に関する科学的知識-特に、避妊や性感染症に関する誤解や偏見を正す-早乙女智子(NTT関東病院産婦人科)白井千香(神戸市保健所)【戦略編】1)先進国の取り組みに学ぶ 剣洋子(産業医大公衆衛生学教室) 対馬ルリ子(都立墨東病院周産期センター)・WWビデオシリーズ「避妊」の製作・販売:近代的な避妊法を中心に科学的に解説した教材。学校で活用するための授業計画案付。	・メグ・ヒックリングさんの性教育セミナー 4月21日 主婦会館プラザエフ 1)性の健康教育の理念と概要 2)家庭での性、子どもと語り合うために 3)なぜ、幼児からの性教育が必要か 3)年齢別子どもたちに必要な情報 4)性的虐待から子どもを守る 5)性感染症 6)専門家の取り組み方・「十代の性と健康」指導医養成講座 第二回 日本女医会主催に協力 10月6日 主婦会館プラザエフ・講演・シンポジウム「10代のこどものからだと心」十代の性を考える有志の会、メグの性の健康教育ネットワーク共催に協力 12月1日 札幌医科大学 臨床教育研究棟講堂・性感染症に関する若者へのフォーカスグループインタビューおよび調査と性感染症学会等への発表・WWビデオシリーズ「性感染症」の製作
60. 日本外来小児科学会 (14年度取り組み) (15年度行動計画)		1. リーフレット作成委員会より、リーフレットの作成と配布(思春期の鉄欠乏性貧血) 2. ワークショップ:思春期のプライマリケアをどう実行するか 8月31日、第12回日本外来小児科学会年次集会、名古屋国際会議場、参加者 25名 概要:小児科医が思春期のプライマリケアを担う場合の基本的な知識、技術、実行するうえでの問題点について討論した。	1. リーフレットで思春期に関するものを作成する。 2. 学会の年次集会でワークショップを継続し、ガイドライン作成をめざす。また、学会全体の活動として位置づけられるよう活動を拡大する(思春期問題検討会の設立)
63. のぞみの会 -アレルギー児を支える親の会-	会員に対する「会報」発行を通じて正しい情報提供を図る		平成13年10月解散

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題1）
-思春期の保健対策の強化と健康教育の推進-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
65.(社)日本女医会	会誌に「健やか親子21」について記事を掲載する 関連事業として、全国の女性医師会員を対象に「十代の性と健康」指導養成講座を10月に行う 本養成講座用に資料集、教材を開発する 地域のネットワーク構成の実践法を作成する	会誌に健やか親子についての記事を掲載 「十代の性と健康」指導医 養成講座開催 平成13年10月28日(日) 女性と仕事の未来館 4Fホール 約100名参加 ・大変有意義であった、という意見が多かった。継続希望者が多かった 地域で、女医が10代の性教育を行う上で有効なビデオ及び副読本の作成 資料集の作成	外国人講師による講演会の後援 ビデオを利用した、指導医養成講座・研修会の継続 教育教材の開発 インターネットによる健康教育
68.(社)日本泌尿器科学会	少子化対策の一環として行われる予定になっている各地域での医師会主催の公開講座への学会会員の支援、参加を促す 思春期の男女が抱える「性」に関する種々の問題点に関し、他団体と協力し全国2～3地域で公開講座を開催する	第4回東北性ホルモン研究会特別講演 平成13年9月1日開催盛岡メトロポリタンホテル 約100名参加概要:健やか親子21について学会員に説明し、積極的な取組を促した 第5回つくば泌尿器科フォーラム特別講演 平成13年11月21日開催 ホテルグランド東雲 約100名参加 概要:健やか親子21に対する泌尿器科医の取り組むべき課題を説明した 第34回旭川泌尿器科談話会特別講演 平成14年3月29日開催 旭川グランドホテル 約50名参加 概要:思春期が抱える「性」に関する種々の問題点を明らかにし、積極的な取組の必要性を強調した	第21回日本思春期学会総会学術集会を主催 平成14年8月22日～24日 金沢市文化ホール 約700名が参加予定 概要:市民公開講座「思春期をめぐる諸問題と健やか親子21」を開催し、行政、教育現場、保健、医療の立場から一般市民に思春期に関わる諸問題とその対策について啓蒙する また、学術集会では「IT社会と思春期」をメインテーマに、IT社会特有の思春期問題を専門的に分析し、新たな対策を検討する 各地の泌尿器科関連学会で、思春期に関する特別講演、シンポジウムを行なう 概要:平成13年度に引き続き、各地の泌尿器科学会関連学会の際に思春期問題を取り上げる。特に、性感染症など「性」に関わる諸問題を重点的に検討する 泌尿器科以外の専門医、教育関係者、行政との連携 概要:思春期問題を多面的に捉え、有効な施策を検討する
69.日本臨床心理士会	課題への研修会の実施 全国大会	・日本臨床心理士会主催「子育て支援研修会」を開催・日本臨床心理士会会報に「健やか親子21推進協議会」を報告・各都道府県臨床心理士会「子育て支援担当理事」会議開催(各地の情報を共有)・各都道府県臨床心理士会で子育て支援研修会を開催	13年度の取り組みを更に発展させる
72.(財)日本性教育協会	性教育に関する調査研究を行うとともに、これに基づく情報の提供と啓発活動を通じて正しい性教育の普及、振興をはかる	性教育に関する資料・文献の収集、および公開性教育に関する研究会、講習会、講演会の開催 性教育に関する雑誌、図書、資料の出版	第32回全国性教育研究大会への協賛 第42回、第43回日本 = 性研究会議の開催 7～12月までに12回のトークセッション開催 9～11月に全3回で「性と生徒指導について考える」セミナー開催 凡アメリカ保健機構・世界性科学学会が出した『セクシャル・ヘルスの促進 行動報告』の翻訳出版